

設 立 趣 意 書

平成 17 年の合併当時の宍粟市住民基本台帳人口は、45,724 人でありましたが、平成 26 年度末人口は、40,473 人となり 5,251 人減少し、人口減少の一途を辿っておりました。

このような状況に歯止め掛けるために、本市では平成 27 年度に人口減少対策を最重要課題として位置付け、「宍粟市地域創生総合戦略」を策定し 4 つの柱を掲げ、その一つに本市の「まちの魅力」を全国に発信し、宍粟市を訪れたい、宍粟市で住んでみたいと思ってもらえるまちづくりに取り組んでいるところがあります。この間には、本市の最大の資源である森林を生かした「森林セラピー基地」の設置、音水湖にカヌー競技場を設置し大会を積極的に誘致し、悲願でありました東京 2020 オリンピック聖火リレーが音水湖周辺を通過することが決定し注目が高まっております。さらに、宍粟市全体が元気になり、まちが活性化するとともに、地域経済が発展し持続可能なまちづくりに向け、仕組みが必要であると考え、その取組の一環として、「日本酒発祥の地・発酵のふるさと」を掲げ、発酵のまちづくりを宍粟市地域創生総合戦略に追加し、宍粟市創生の実現に向け取り組んでいきたいと考えております。加えて、本市の発酵の歴史・文化を広く周知し、市全体で「発酵のふるさと 宍粟」を共有し、市民の生活の中で発酵食を日常的に取り入れることで市民の健康（健幸）増進、地産地消・食育の推進に取り組んでいきたいと考えております。

このような取組を市全体で推進していくためには、各種産業界の企業、事業者及び地域活動団体、市民、行政等との連携が重要であると認識するとともに、発酵を通じて新たな価値を創出し、持続可能な循環型社会の実現に向け、この度、宍粟市発酵のまちづくり推進協議会の設立を提案するものであります。

令和元年 7 月 31 日

宍粟市長 福元 晶三